

## 吾妻古墳現地説明会を開催しました。

財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターでは、栃木県教育委員会の委託を受け、栃木市と壬生町にまたがる国指定史跡吾妻古墳の発掘調査を行っています。平成22年12月19日に行われた現地説明会では、271名の参加がありました。



石室の調査結果に注目が集まります



出土遺物の説明を熱心に聞く参加者

あ づま こ ふん  
吾 妻 古 墳

栃木県教育委員会文化財課

栃木県宇都宮市塙田 1-1-20 TEL 028-623-3425

(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

栃木県下野市紫 474 TEL 0285-44-8441

栃木市大光寺町字吾妻

下都賀郡壬生町藤井字吾妻原

## 1 はじめに

思川と姿川に挟まれたこの地域には、吾妻古墳をはじめとする県内屈指の古墳が6世紀から7世紀にかけて多数造られており、これらは現在の下都賀郡を中心とした地域を治めた歴代の王(在地の首長)の墓と考えられています。

吾妻古墳は、古墳時代後期(6世紀)に造られた大型の前方後円墳です。保存状態も良く、栃木県を代表する古墳であることから、昭和45年に国の史跡に指定されました。昭和59年には壬生町教育委員会により測量調査が行われ、現在の詳細な形が明らかになりました。

平成19年度からの確認調査で、<sup>きだん</sup>基壇と呼ばれていた地区は土盛りがされており、墳丘の一部であること、墳丘部分の全長が127.8mで栃木県最長であること、前方部前端で横穴式石室を確認し、江戸時代に「吾妻の岩屋」と呼ばれていたものであることを確認しました。横穴式石室から<sup>けいこう</sup>挂甲(よろい)の部品や、ガラス玉が出土し、墳丘からは埴輪が出土しました。それらの特徴から、吾妻古墳は古墳時代後期(6世紀後半)に築造されたと考えられます。

今回の調査は、古墳の範囲、造られた当時の形や規模、造られた時期などを調べるため、後円部の埋葬施設の有無を確認するために2本のトレンチ(試し掘りの溝)、前方部の幅を確認するために4本のトレンチ、前方部の横穴式石室の大きさを確認するために3本のトレンチを設定しました。

## 2 今年度の調査成果

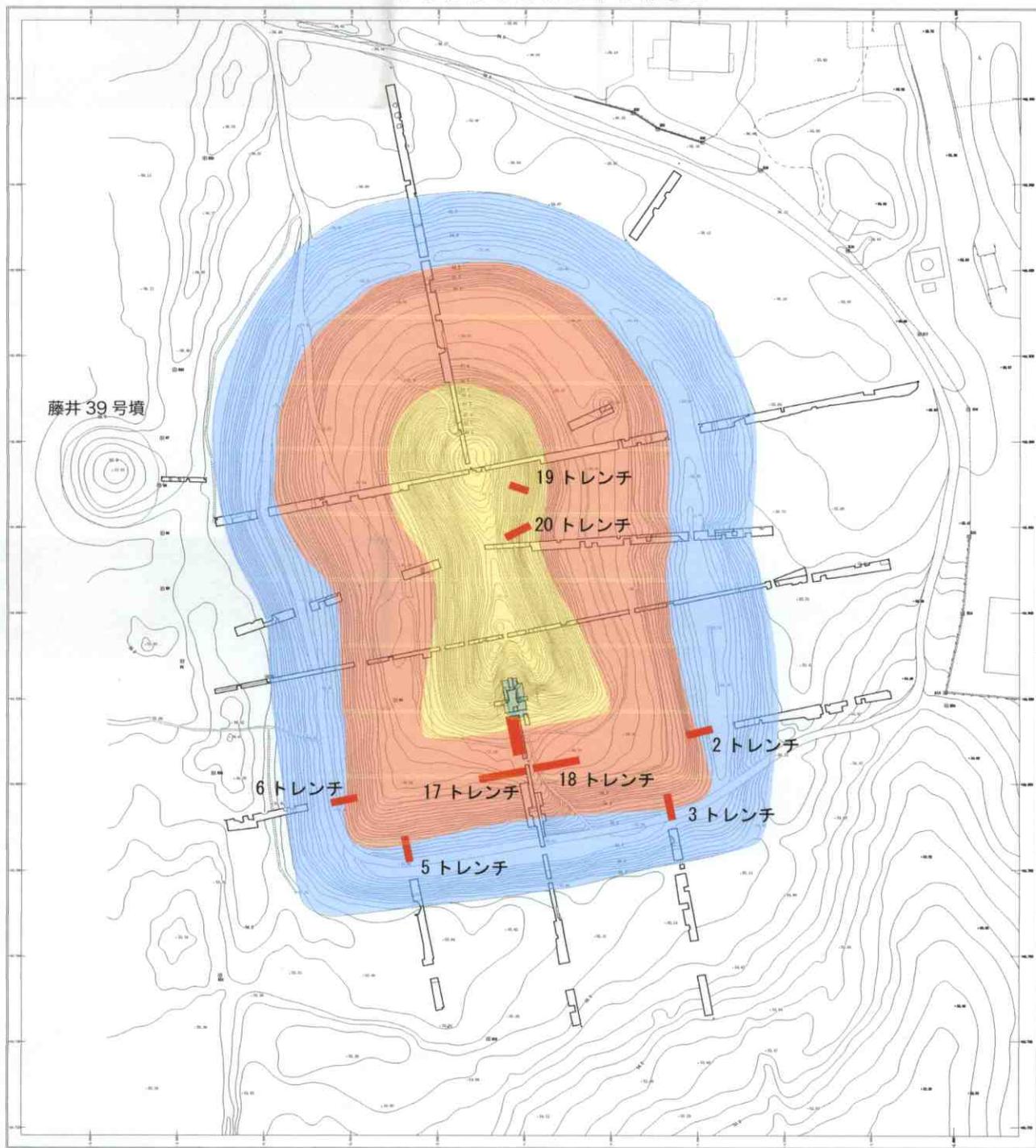
1. 後円部・くびれ部には、平成21年度に電気探査を行ったところ、電気抵抗の異常な箇所が認められ、未発見の埋葬施設が存在する可能性が窺えました。その部分を発掘しましたが、明確な埋葬施設は発見できませんでした。また、墳丘裾からは埴輪が多く出土しており、埴輪列の存在が想定されます。ほとんどが円筒埴輪ですが、これまでの調査で人物、家、盾、<sup>たて ゆき</sup>鞆(矢を入れる筒)などの形象埴輪の破片も発見されています。
2. 前方部の幅の大きさを確認するため、周堀内を発掘しました。前方部の幅は87.76mです。後円部直径は88.04mで、後円部と前方部の大きさがあまり変わらないことが分かりました。埴輪が数点出土しましたが、墳丘の出土量と比べるとわずかです。周堀にたまった土の中からは、浅間山が天仁元年(1108年)に噴火した時の火山灰(浅間B軽石層)の層が見つかりました。このことから、周堀にたまった土が乱されておらず、保存状況が良好であることが確認できました。
3. 前年度に確認した前方部の横穴式石室では、<sup>せんりよくがん</sup>閃緑岩の巨石で作った奥行き2.4m、幅1.7mの<sup>げんしつ</sup>玄室の奥の部分(奥室)の前にあたる部分を調査しました。石室は破壊が著しかったものの、川原石を積んだ壁や凝灰岩を加工した石材による入口の石を確認しました。その結果、石室の全長が8.4mであることが判明しました。この長さから、玄室の前の部分(前室)、玄室に入るための通路(<sup>せんどう</sup>羨道)で構成されていることが想定できます。石室の中からは<sup>けいこう</sup>挂甲(よろい)の部品、<sup>そうしよくつきたちせめかなぐ</sup>装飾付大刀貴金具、<sup>ぎんそうとうす</sup>銀装刀子が、石室の前からは<sup>こんどうせいおびかなぐ</sup>金銅製帯金具が発見されました。よろいの出土から、この古墳に葬られた人は、兵士を

率いるような高い身分の人と考えられます。金銅製帯金具は身分の高い人が乗る馬を飾ったものです。古墳時代の遺物の他にも、江戸時代の銅製懸<sup>かけぼとけ</sup>仏が出土していることから、石室が開けられた後は仏堂として使われていたことが分かりました。

### 3 まとめ

今年度の調査で、吾妻古墳の前方部の石室の規模が明らかになり、金メッキした豪華な副葬品が納められていたことが明らかになりました。昨年の成果と併せ、栃木県を代表する古墳時代の王墓・吾妻古墳の姿が少しずつ明らかになってきました。私たちはこのような貴重な古墳を後世に残していきたいと考えています。

吾妻岩屋古墳航空写真測量図



昭和59年3月測量  
平成21年3月修正  
等高線間隔 20m  
標高系 宮城県

- 墳丘二段目
- 墳丘一段目 (基壇)
- 周堀外縁～底面
- 石室位置

平成 22 年度の調査トレンチ

